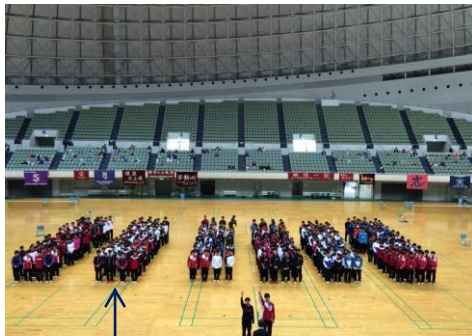


第63回近畿高等学校バドミントン選手権大会

平成28年11月12・13日
於 大阪府立門真スポーツセンター



和歌山選手団



【和歌山選手団】

吉本

浪江



17	赤井 太一	(京:洛)	西)	16
18	武野 一雄	(和:粉)	河)	16
19	前川 裕駿	(奈:奈良大学附属)	17	0
20	藤井 大樹	(大:関西福祉科学)	3	0
21	辻口 柚葉	(滋:河)	瀬)	45
22	酒井 友基	(和:熊)	野)	18
23	吉本 利貴	(兵:社)	2	2

11月12日(土) 男子ダブルス

2回戦 対 兵庫県 社高等学校 0-2

夏の近畿大会県予選会で近畿大会出場を決めてから、県予選では実現できなかった「自分達らしいプレーをする！」を近畿大会での目標に設定し、毎日のハードな練習や遠征を頑張ってきました。近畿大会直前の強化練習会でも、今まで負けることが多かった相手に競り勝つようになっていたり、1回のラリーが長くなっていたり、自分達なりに自信もついてきていました。しかし、いざ近畿大会の会場に足を踏み入れると、会場の大きさ・広さに圧倒され、そのプレッシャーから前日の公式練習では、もう既に緊張していて、自分達のコンディションは良いとは言えない状態になっていました。

そして迎えた大会当日、対戦相手は強いところだと分かっていたので、良いラリー・良い試合をしようと心に決めて試合に挑みました。正直、緊張は絶対すると思いましたが、想像以上に身体が硬くなり、パニックになって冷静さを失い、甘いショットなど同じようなミスを繰り返していました。途中、僕達のプレーリズムに合わせて、何となく聞き慣れた声援が聞こえてくるような気がしていました。さすがにこの場所にチームの仲間がいることはないだろうと思ってプレーしていましたが、11点のインターバルの時、2階の観客席を見るように促されると、そこにいるはずのない熊野高校のチームメイトがサプライズで応援に来てくれていることを知りました。みんなの姿を見ると、少し楽な気持ちになり、少しでも応援に来てくれた気持ちに答えようと自分に喝を入れました。結果はセットカウント0-2で負けてしまいました。やはり近畿のレベルは高かったです。目標としていた「自分達らしいプレー」をしたとは言い難いですが、良い経験をすることができました。

自分達の試合が終わった後は、和歌山県の選手団の一員として、和歌山の選手の応援をしながら、近畿のレベルの高い選手のプレーを間近で見えていました。そのプレーは大変勉強になり、考えさせられることばかりで、またたくさんの課題ややってみたいプレーが増えました。

今回の近畿大会は2回戦で負けてしまいましたが、次のステップへつながるものだと確信しています。今回の近畿大会は1つの通過点であるだけで、気持ちを切っている暇はありません。次の大会は1月にある新人戦で、また違う姿を見せられるよう、近畿大会で学んできたことを生かして、これからも日々の練習に努力していきたいと思っています。

…目標を持って毎日努力することで掴んだ近畿大会の切符。あの大きな会場でプレーしている僕達の試合を後輩に見せられたことで、来年の目標にしてもらえたらと思っています。あの場でプレーできた僕達だからこそ、後輩に伝えていけることもあるはずなので、残りのクラブ生活の中でしっかり伝えていきたいともっています。

これからも応援よろしくお願いします。



バドミントン部 吉本 柇斗 浪江 利貴